

白山ミュージアム

HAKUBUTSUKAN

CHIYOJYONOSATO HAIKUKAN

MATTO NAKAGAWA KAZUMASA KINEN BJUTSUKAN

MATTO FURUSATOKAN

ISHIKAWA RU-TSU KOURYUKAN

KURETAKE BUNKO

TORIGOE IKKOUIKKI REKISHIKAN

帰ってきた白山下山仏

白山市尾添区には、かつて加賀禪定道の檜新宮で祀られていた仏像があります。白山では、江戸時代まで、神と仏が一緒に祀られていましたが、明治維新後、これらを分けるようになると、時の政府から政令が出されました。檜新宮にあった社殿も壊し、中で祀られていた仏像も処分するように命令が下されたため、尾添区の人々は、中の仏像を4キロメートルはなれた麓の尾添村へ明治七年（一八七四）七月に移しました。《以後、『白山下山仏』と称す。》



尾添白山社白山下山仏木造阿彌陀如来立像
 (鎌倉時代 石川県指定文化財歴史資料)
 画像提供：奈良国立博物館

尾添区の白山下山仏は、九体あり、このうち木造阿彌陀如来立像は、そのシルエットと台座に記された銘から、鎌倉時代の仏師快慶の工房で制作されたことがわかっています。

これまで大きな修理が行われたことはなく、全体的に傷みがあったため、令和二年四月から、奈良国立博物館内にある公益財団法人美術院の工房で修理が行われました。

このほど、修理を終えた白山下山仏が里帰りし、博物館企画展「帰ってきた白山下山仏展」において公開されます。
 (詳細は七頁)

contents

- 帰ってきた白山下山仏 1
- Stones -白山手取川ジオパークの石、川、大地- 2
- 生誕100年記念 人間国宝 刀剣作家 隅谷正峯 3
- 千代女と四季の植物 4
- 昭和9年 手取川大水害を語る 5
- 『朝倉始末記』からみえる一向一揆 6
- 令和4年度 前期行事予定等 7
- 令和4年度 文化施設展示・行事予定等 8

白山市立博物館企画展

Stones

— 白山手取川ジオパークの石、川、大地 —

会期 令和三年七月九日～八月一日

令和二年十月に白山手取川ジオ

パークが日本ジオパーク委員会から

ユネスコ世界ジオパークの十地域目

の国内推薦が決定されたことをうけ

て、企画展「Stonesー白山

手取川ジオパークの石、川、大地ー

を開催しました。

今回の企画展は、白山手取川ジオ

パークの大地を作る石がテーマです。

白山市の南北40kmにつながる手取川

の上流から下流まで、白山のふもと

から流れ出た、石や岩などが、上流

から下流に流れつき日本海に出てい

く過程を、七地点に分けて展示しま

した。

1. 白山登山道沿いの石

(白峰地内)

2. 一ノ瀬・タラタラ淵の石

(白峰地内)

3. 手取川河原の石

(河原山町地内)

4. 手取川河原の石

(上野町地内)

5. 手取川河原の石

(白山町地内)

6. 手取川河原の石

(県営手取公園右岸)

7. 日本海海岸の石

(平加臨海公園)

以上七地点です。

それぞれの地点の石を、種類・大

きさ・形状が観察できるように配置

し、あわせて、手取川の上流から下

流域まで「桑島化石壁」(中世代白

亜紀前期の恐竜化石、植物化石)「手

取峡谷」「手取川扇状地」等、特徴

的な風景の中に見て取れる流域の豊かな自然をパネル展示により紹介・解説しました。

水の旅と石の旅は、終わることが

ありません。水は再び蒸発して、空

から雨や雪として、石は再び、砂岩

や礫岩として、大地を形づくりま

す。地球で起こる水の旅と石の旅を展

示を通して感じてもらえたら幸いです。

また、七月二十九日に夏季子ど

も講座「Stonesー白山手取

川ジオパークの石、川、大地ー」を

開催しました。

参加した小学生は、恐竜の化石さ

がし体験や、白山市の特徴的な自然

に興味を示したようで、終わりの質

問コーナーでは、拳手が続きました。

今回の企画展では、白山市の雄大

な自然に興味を持った多くの小学生

が見学に来て、白山手取川ジオパー

クに広がる自然の偉大さに大きな感

銘を受けた様子でした。

(白山市立博物館 尾崎)



夏季子ども講座 (特別展示室内)



展示のようす (特別展示室内)

白山市立博物館 特別展
 生誕一〇〇年記念 人間国宝 刀剣作家 隅谷正峯

特別展 『思いは鎌倉期に漂いて』

会期 令和三年四月二十四日～五月十三日

スポーツ展 『永遠なる煌めき刀剣作家隅谷正峯』

会期 令和三年十一月二十日～十二月十二日

今年四月開催の特別展「人間国宝 刀剣作家 隅谷正峯」が「石川緊急事態宣言」の発出に伴い、会期半ばで中止となりました。

連休明けの突発的な中止も相まって休館時には、期間延長など展示にかかる問い合わせが数多くありました。

ファンの熱い声援を受け、隅谷正峯がご逝去された日を最終日とし、標記スポーツ展の開催に至りました。

スポーツ展では、常設展示ケースの背面に額装や軸装が施された「土置図」を品良く配置し、特別展で好評を博した太刀、小竜景光写「千早

城」や第三回の正宗賞受賞作「中千本」のほか、今回が初展示となる太刀、「千歳」、刀長が四十センチある脇指の「勸進帳」など秀作を際立たせました。

また、左下に掲載の「槍拵」写しは、天下三名槍のひとつ大身槍「日本号」の拵で、細かくカットされた青貝が散りばめられ、神秘的な輝きを発しています。

乾燥に弱く、剥がれ易いため、展示では傍に湿度計を配置しました。

スポーツ展では、隅谷正峯作の「日本号」写し「雷光」（寄託品）と併せて展示・解説しました。

二十一日には、特別展の会期中に

開催を予定しておりました宮入法廣氏の講演会「師・隅谷正峯を語る」を開催し、隅谷正峯の「人となり」のテーマで講演が行われ、終わりに、次々と新作を発表されているご自身の作刀目標や今後の抱負についてもお話しいただきました。

幸い好天に恵まれ、過ごし易い一日ではありましたが、会場が軽体育館ということもあり、音声が反響し、観客の皆様や講師の宮入先生にもご不便をおかけいたしましたことにつきまして、本書面をお借りしてお詫びいたします。

今回、特別展はもとより、スポーツ展示にあたり、お世話になった隅谷家の皆様や日本美術刀剣保存協会会員の小浦氏をはじめ、展示に関わった方々、並びに貴重な隅谷作品



特別展の様子



螺鈿枅形紋散槍拵 (らでんますがたもん ちらしやりこしらえ) 1973年制作

を快く貸出しいただいた関係各位の皆様にお礼を申し上げ、お礼の言葉に代えさせていただきます。本当に有難うございました。

(白山市立博物館 井家)

白山市立千代女の里俳句館 企画展 千代女と四季の植物

会期 令和三年十月一日～十月二十四日

本企画展では、千代女の俳画作品の中から、植物をテーマとした作品を展示しました。

千代女の句と植物

現代の歳時記では、一般に、季語を春・夏・秋・冬・新年の五季に分け、それぞれを季語の内容から「時候」「天文」「地理」「生活」「行事」「動物」「植物」に分類します。この分類に、千代女が生涯に詠んだとされる一九〇〇余句を当てはめると、三分の一以上を「植物」の句が占めます。

千代女が活躍した江戸時代は、園芸が趣味のひとつとして広まり、園芸書や植物図鑑のような書物が多数刊行されるなど、人々の植物への関心が高まった時期でもありました。千代女が、身近な植物を材料にたくさん句を作ったのも、そうした時代背景の影響かもしれません。

千代女の句には、さまざまな種類の植物が登場しますが、中でも「桜」「梅」「柳」「桃」といった春の植物が多く詠まれています。北陸の長く暗い冬を耐えて春を迎えた植物たち

が詩情をそそり、数々の名句が生み出されたのかもしれませんが。

千代女の俳画

千代女が画を学んだ人物は明らかではありませんが、五十嵐俊明や矢田四如軒、さかきひやくせん 彭城百川ではないかとする説があります。

五十嵐俊明（一七〇〇～一七八二）は越後の人で、江戸や京都で狩野派・土佐派・南宋画・北宋画・大和絵等諸派の技法を吸収し、独自の画境を開きました。山東京伝著『近世奇跡考』に、千代女が俊明から画を学んだと記述があり、二人の関係は今後の検討課題といえます。

矢田四如軒（一七一八～一七九四）は、前田土佐守家に家老として仕えた武人画家で、千代女との合作が複数残されています。

日本南画の祖の一人、尾張の彭城百川（一六九七～



展示の様子

一七五二）は、俳人でもあり、俳画の大成者と謝蕪村に影響を与えました。寛延元年（一七四八）に加賀を訪れており、千代女との合作が残っています。

千代女は他にも、狩野派の画人や池大雅の妻玉瀾などとの合作があり、多くの画人との交流により、書画の技術を高めていったことが伺えます。

（千代女の里俳句館 横西）



千代女と池玉瀾の合作軸

昭和九年 手取川大水害を語る

当館は、平成三十年にリニューアルを行い、「白山手取川ジオパーク」の拠点の一つとなっております。

今年度、ボランティアガイド美川おかえりの会の方などにご協力いただき手取川の災害として被害が大きかった昭和九年に起こった手取川大洪水に関する標記イベントを開催する予定でございました。

しかし、コロナウイルス感染拡大防止のため、二月、六月、八月と三回延期せざるを得ない状態となってしまいました。

その時に、イメージしやすいよう、写真をご覧いただこうと当館所蔵の写真を選びました。その写真のご紹介とともにこれまでに手取川大洪水を体験した方や伝え聞いた方からお聞きしたことの一部をご紹介します。いただきます。

多くの方が真っ先におっしゃったのは、美川大橋が濁流に押し流され、農機具を製造していた広瀬製作所社長の別荘が、あつという間にのみこまれたことでした。

「あかがね御殿」と呼ばれていた頑強な建物が流されたことに衝撃を受けたとお聞きしています。



河口に打ち上げられた船と流木

小さい時に体験された方は、幸いにも家は何ともなかったが、まだ今年度の米を収穫する前に洪水で田が水

につかってしまい、食物がほとんどありませんでした。今の時代ならば到底無理だろうが、泥水につかった米はとてむくさい匂いがしたが、他に食べる物もなく、仕方なく食べたとおっしゃっていました。

また、家やお店が大丈夫だった方も、御商売をされていた方は店の商品がだめになり、さらに店に運ぶ前、船に積まれていた品が船と共に流されてしまいました。それだけでなく、

その当時は、まだついで支払いを行っていたため、被害に遭われた方々からは、集金ができず、大変な思いをしたとお聞きしています。



手取川大洪水に遭った美川木橋



炊き出しをする婦人会員

現代とは違い、重機や道具が満足にない時代に大きな木や石、建物の残骸などを取り除くには想像できないほどのご苦労があったと思われるばかりです。

三月二十六日(土)に、これまで開催出来なかった「昭和九年 手取川大水害を語る」を開催する予定です。少しでも洪水の恐ろしさを感じていただける機会となりますよう、無事開催できることを祈っています。

(石川ルーツ交流館 早松)

『朝倉始末記』からみえる一向一揆

軍記物である『朝倉始末記』は比較的良質の史料として知られます。

江戸時代半ばまで書き継がれ多くの異本（写本）があります。同時にその時の社会思想の影響が込められるのも特徴といえましょう。『蓮如一向一揆』（日本思想大系17）に収録される「朝倉始末記」は、「賀越鬪諍記」「越州軍記」を合わせ「朝倉始末記」とされています。「賀越鬪諍記」は朝倉氏と加賀一向一揆の抗争を記述し、「越州軍記」は織田信長との戦いを描いています。

「賀越鬪諍記 序文」には「国を治むる者は道を以つて欲する時は能く持ち、政を務むる者は徳を以つて欲する時は能く収む」と語ります。江戸時代に教養として広まった思想が反映しているようです。批判的な言辞で「一向一揆」の姿をみていま

す。「蝙蝠（こうもり）世に出で仏

法を乱し、王位を傾く。蚰蜒（げじげじ）国に在りて正義を破り、邪僻を用う」といい放ちます。蝙蝠とは武装した僧を指し、蚰蜒とは武装した農民をいいます。上下貴賤世界秩序が自然の理であるという朱子学的思想を背景に見ることができません。

朝倉氏家訓「朝倉孝景条々（十六条）」には人材の登用について述べ名刀より数多くの槍を求め、合戦には吉凶占いに囚われるなど戒めま

す。優れて合理的な内容を持っています。朝倉一族重臣家訓「朝倉宗滴話記（八十三条）」第十条に「武者ハ犬トモイヘ、畜生トモイヘ、勝力本ニテ候」と著名な文言が残されています。後世の武士道とは異なり「勝」ことだけが求められます。加賀一向一揆

と戦った戦国大名は観念に囚われぬ百戦錬磨の武将たちでした。

一方、一揆方も合理的な思考を持っていきます。「吉日良辰ヲ撰フコ

ト一代ノ教文ニナシ。善悪不二、邪正一如トトカレ、本来無東西、何処有南北ト方所ヲサス事ナシ。

其上涅槃經ニハ、如来法中無有選択吉日良辰トアツテ、仏道ニ帰スル輩ノ吉日良辰ダテヲノタマフコト无道ナリ」といい、あるいは「此文ノココロハ、如来ノ法ノ中ニ吉日良辰ヲエラフ事ナシ（御文）」と語ります。魍魎魍魎の闇を恐れぬこの思想を人は「文明開化」だといえます。

かくてこの二者は戦国の北陸を舞台に一進一退の攻防を繰り広げます。

以上のような観点で『朝倉始末記』の異本『朝倉実

録』全十六卷（開版出版は、書肆

柏原屋明和三年三月）を所有者の許可を得て借用展示公開し、令和三年度の企画展を開催しました。

（鳥越一向一揆歴史館運営委員 西出）



『朝倉実録』（個人蔵）異本のひとつといわれます

千代女の里俳句館企画展
俳句と写真展

令和4年6月11日(土)～8月7日(日)

毎年実施している恒例の展覧会です。今回は「初夏」をテーマに、白山市俳句協会会員による写真俳句作品を展示します。

また、白山市松任写真同好会会員が撮影した写真へ投句できるコーナーもあり、誰でも自由に参加できます。

本展覧会については、観覧無料です。

**呉竹文庫が
開館百周年を迎えます**

令和4年4月23日(土)

～7月18日(日)

設立者、熊田源太郎が私設図書館財団法人呉竹文庫として開館してから、今年百周年を迎えます。

源太郎の死後、休館状態になった時期もありましたが、百年前に図書館を作り、広く公開した源太郎の見識を知っていただく機会となりますよう、「熊田源太郎と呉竹文庫」展を開催いたします。

石川ルート交流館
「篠笛コンサート」

令和4年4月17日(日)

14時～15時30分

二年ぶりとなります、篠笛奏者八木繁さんと「粋音会」の皆様による民謡や叙情あふれる曲を三味線などの演奏とともに楽しみください。

鑑賞は無料です。

いしかわ百万石文化祭2023
白山市プレイベント 企画展
「帰ってきた白山下山仏展」

令和4年4月23日(土)～6月5日(日)

保存修理を終えた尾添白山下山仏社の木造阿弥陀如来立像を公開します。

仏像の身丈は九十九cmで、そのシルエットから鎌倉時代の仏像制作集団である快慶の工房で制作されたものであることが分かっています。

また、併せて白山下山仏があった加賀禅定道の檜新宮(ひのしんぐう)の資料も展示します。



令和4年度 展示・行事予定

事業計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
白山市立博物館 275-8922	いしかわ百万石文化祭2023 白山市プレイベント 企画展 「帰ってきた白山下山仏展」 4/23～6/5		企画展 「HAKUSAN City コレクション展」 7/22～8/28		企画展「白山手取川 ジオパークの歩み ～ユネスコ世界 認定へ～」(仮称) 10/7～11/13		スポット展示 「石川中央都市圏 考古資料展」 11/25～12/25		企画展 「かわってきた道具と わたしたちのくらし」 1/20～3/5					
	◆講演会等 ◆講座 4/15音楽祭コンサート ◆鉄道模型運行 ①5/15				8/11講演会「懐かしき昭和レトロ」 8/3夏休み工作教室 9/25伝統工芸教室		11/20日本刀鍛錬場見学会		1/22-29・2/5古文書講座		④3/19			
千代女の里俳句館 276-0819	立夏展示替		立秋展示替		立冬展示替		新年展示替		立春展示替					
	企画展 「俳句と写真展」 6/11～8/7		企画展 「千代女と見風」(仮称) 8/27～10/10		俳句協会 会員展 10/29～ 11/13		千代女・ 一茶交流 パネル展 12/10～ 12/25		企画展「俳句の楽しみ展」 1/14～3/12					
	春期俳句ポスト選句 4/21音楽祭コンサート 4/24音楽祭茶会		夏期俳句ポスト選句 7/3七夕会		秋期俳句ポスト選句 10/8千代女全国俳句大会 11/26千代女少年少女全国俳句大会表彰式 文学散歩		冬期俳句ポスト選句 12/3俳句講座		俳句ポストパネル展					
	市民俳句教室 ①4/23 少年少女俳句塾 ①5/14		②5/28 ②6/11		③6/25 ③7/9		④7/23 ④未定		⑤8/27 ⑤9/10		⑥10/1 ⑦10/22			
松任中川一政 記念美術館 275-7532	春季テーマ展 「中川一政 書と陶芸の世界 -自在の境地にあそぶ-」後期展 3/23～5/29		臨時休館		夏季テーマ展 「中川一政-薔薇、向日葵、 そしてムーブマンを描く-」 6/18～8/28		臨時休館		秋季テーマ展 「中川一政と武者小路実篤 -よみがえる100年前の扁額-」 9/3～11/27		冬季テーマ展 「中川一政 書と墨蹟コレクションの世界」 11/29～2/26		2023 春季テーマ展 (内容未定) 2/28～	
	4/21ミニコンサート		7/21～7/31 第28回花を描こう絵画展(市民工房うらわし(予定))		2月上旬開催予定 中川一政生誕130年記念コンサート									
	美術館講座「中川一政文集を読む」 ①6/18		7/24 夏休みキッズプログラム「一政に挑戦! 油絵体験」 10/17 0歳からの家族鑑賞会「ミュージアムスタート」		③10/15		④12/17		⑤2/18					
石川ルーツ 交流館 278-7111	企画展 「手取川の鳥」 写真展 6/4～6/30		企画展 「20周年記念写真展」 12/17～1/22 ※年末年始は休館です。											
	4/17篠笛コンサート		7月下旬 ペットボトルでグライダーを作ろう		11/13 ヨシ笛コンサート									
呉竹文庫 278-6252	呉竹文庫開館100周年記念 「熊田源太郎と呉竹文庫」展 4/23～7/18		「呉竹文庫名品展」(前期) 8/2～11/20		「呉竹文庫名品展」(後期) 12/6～3/26									
松任 ふるさと館 276-5614	4/24音楽祭茶会		7/3七夕茶会		9/10月見コンサート 9/10・11「月見夜灯」 9/11月見茶会		2/4雪見茶会 2/4～3/5謎人形展示							
鳥越一向一揆 歴史館 254-8020	企画展 「タイトル未定」 7/23～9/25		企画展示 「石川中央都市圏 考古資料展」 10/21～11/20								◆歴史セミナー			

※各館のイベント等は白山ミュージアムポータルサイト <http://www.hakusan-museum.jp/> で紹介しています。日程等が変更になる場合があります。詳細については各館までお問い合わせください。

白山ミュージアム

検索

